

柳沼 壽 教授 退職記念号によせて

この3月、経営学部の柳沼壽教授が定年退職を迎えられました。法政大学経営学会では、長年にわたって法政大学の研究、教育等に貢献された柳沼先生を讃えて、『経営志林』の本号を退職記念号として刊行することとしました。

柳沼壽教授は、1944年のお生まれで、1967年に一橋大学経済学部を卒業後、日本開発銀行に就職されました。そして、調査部、広島支店、金沢支店、設備投資研究所等で20年間勤務した後、1988年4月に法政大学経営学部に教授として赴任されました。以来、法政大学の教育、研究、学内行政に多大な貢献をなされてきました。

教育では、経営学部の「産業組織論」を主に担当されました。特に柳沼先生は講義を堪能な英語を使って行なわれ、時代の先端を行く講義をなさりました。さらに、法政大学の交換留学生受入れプログラム（ESOP）では毎年 Japanese Economy and Industry や Advanced Economics などの講義を担当されました。研究面では、日本開発銀行設備投資研究所でのお仕事以来、産業構造、技術進歩、資本蓄積などの広く日本企業や日本経済、地域経済における諸問題に取り組んで来られ、その研究業績については本号巻末の主要研究業績リストにみることができます。また、法政大学の付置研究所であるイノベーション・マネジメント研究センターにおいてもその前身である産業情報センターの時代から常に研究をリードされてこられました。その一方で、柳沼先生は法政大学の経営の面でも多大な貢献をなされました。1999年4月から2000年8月まで経営学部長をつとめた後、2000年9月から2001年3月まで法政大学の学生部長として困難な課題に取り組まれました。そして、2005年4月から学校法人法政大学の常務理事を3年間にわたってつとめ、学校法人としての法政大学における経営面で多大な貢献をなされました。

このように、柳沼先生は25年にわたり法政大学に奉職され、研究、教育、行政に尽力されました。この間の法政大学および経営学部の発展にかけがえのない貢献をなされたことは疑いありません。今後は法政大学を離れ、別の大学に奉職されることとなりますが、新たな分野で益々のご活躍ご発展を祈念し、退職記念号刊行の辞とさせていただきます。

2013年4月

法政大学経営学部長

横 内 正 雄